

# ふくしま

Vol.14 発行:令和3年3月19日

# ドキドキだより



担当: 古川佳音

## 担当者のひとこと

今号の担当写真、すごく目つきが悪くなっていますが、必死にマスクをアピールした結果です!!!ちなみに持っているのはキーホルダーです!見えにくくなってしまいました(笑)

こんにちは!ふくしまドキドキだよりです。  
今号は、「しゃがむ土偶 コラボグッズ誕生!」、「しゃがむ土偶愛称募集についてのお知らせ」等をお届けします♪

## しゃがむ土偶 コラボグッズ誕生!

この度、市内の「ブライダルギャラリー SACHIKO」さんが、しゃがむ土偶をはじめとした福島の土偶イラストを使用したグッズを作成されました!!!

パーカー、Tシャツ、トートバッグ、キャップ、キーホルダー、マスクの計6種類!  
それぞれ色や柄違いが2~3種あるので、ちゃんと数えると数はもっと増えます。

現在はブライダルギャラリーSACHIKOさんの店頭及びWEBで販売中ですが、じょーもぴあ宮畑など、ほかの施設やお店での販売も予定しています♪  
皆様ぜひお手に取ってみてください!



©kokoro

河原田さん

## 【ブライダルギャラリー SACHIKO ゼネラルマネージャー河原田さん コメント】

「しゃがむ土偶」と出会った瞬間に古代のロマンが脳内を駆け巡り、その魅力の虜となりました。平等で平和な縄文文化、土偶に込められた再生・繁栄への祈り、混沌とした現代で求められているものがそこにありました。さらに福島市内の桃畑からの出土。  
“ふくしまのスーパースター”になる材料は既に揃っているのです。

福島市にこんな素敵なものがあるということを知り、地元の皆さまと共有し、盛り上げていきたい!そして全国へ、いや世界へ発信していきたい!「しゃがむ土偶」を“ふくしまのスーパースター”にしたい!そう思うようになりました。

そしてこの度、その壮大な計画の第一歩としてTシャツやパーカー、バッグなどドキドキなグッズを制作しました。特に縄文風模様で「しゃがむ土偶」のシル



エットを3方向からとらえたデザインは、縄文文化や「しゃがむ土偶」好きの方はもちろん、それらを全く知らない方にとって、この素敵な世界に触れるきっかけになって欲しいという思いからデザインしました。

どのグッズも今後、皆さまのもとに届きやすくなるよう、文化振興課様と協力して作っていきますので、その際はお手にとっていただけますと幸いです。これからも、グッズだけでなく、地元の皆さまと一丸となって「しゃがむ土偶」を盛り上げられるようなドキドキな企画を考えていきます!道は始まったばかりです!ぜひ一緒に“ふくしまのスーパースター”の誕生に立ち合いましょ!!

商品の詳細は右のQRコードから、  
または「ブライダルギャラリー SACHIKO」で検索!



ブライダルギャラリー SACHIKO  
←公式ホームページ

kokoro公式Twitter →



## 前号のクイズこたえ

Q. ごはん一杯分とクルミ10個。  
カロリーが高いのは当然ごはん。○か×か?

A. ×

クルミ1個40kcal=400kcal。ごはん普通盛は250kcal

## 今月のクイズ

Q. 宮畑遺跡は、東京ドームより広い?

☆答えは次号で☆

## しゃがむ土偶 愛称募集についてのお知らせ



令和2年10月24日～令和3年1月31日まで募集していた「しゃがむ土偶 愛称募集」。

予想をはるかに超える、4000件以上のご応募がありました！

応募くださった皆さんありがとうございました♪

当初のお知らせでは、令和3年3月中に決定した愛称を発表する予定でした。

決定した愛称の登録商標に時間を要することから、

**4月以降、登録が終わり次第、愛称の発表を行うこととなりました。**

発表を楽しみにしている皆さんごめんなさい(>\_<)

愛称発表までもうしばらくお待ちください！

ごめんなさい！  
発表までもう少し  
お待ちください！



## 生活課×しゃがむ土偶 交通安全啓発用クリアファイル

今回は同じ部内でのコラボとなりました！

生活課で毎年製作している交通安全啓発用のクリアファイルに、しゃがむ土偶のイラストを使用いただいています♪しゃがむ土偶イラストの原案を埋蔵文化財係の星さんが担当しました！

部数は限られていますが、皆さんぜひお手に取ってみてください！

市内の中学校新入学1年生に配布し、交通安全を呼びかけます。今後もしゃがむ土偶とコラボしていきたいです！



生活課の担当（佐藤翼さん）よりコメントをいただきました！



裏面にはしゃがむ土偶の簡単な説明もついています！

企画展は終了しましたが…

## 短期連載「土偶の世界」のウラガワ！

## 第3回 土偶を守る“透明ないと”の謎



↑ 意外とピンでテグスと台座を固定するのが難しいです

【どぐうちゃんより】

ちなみに、先月の福島県沖地震の際も、じょーもびあ宮畑で展示している土器や土偶が、通常の展示位置からずれるようなことは起こりましたが、割れたり壊れたりする被害は最小限でした！

博物館で土器や土偶の展示を見ると、細い釣り糸のようなものが巻き付いていること、ありませんか？左の写真の黄色い矢印部分のことです。

これは「テグス」と呼ばれる、ナイロンなどの合成繊維でできた糸が使用されています。釣り糸としても使われているので、そっちでなじみのある方が多いかもしれませんね♪

写真をよく見ると、土偶にテグスをまいて、その先を下の土台にピンで固定しています。

土偶と接する面はチューブの中に糸を通して、土偶が傷つかないようにしています。

なぜこんなことをするのでしょうか？

理由は簡単で、貴重な文化財が倒れて壊れることから守るためです。

テグスによる固定方法は簡単で一般的なもので目にする機会も多いと思います。

観覧者からカッコ悪く見えるかもしれませんが、とても大切なことなのです。

このような学芸員の皆さんの努力によって、文化財が守られています！！

短期連載「土偶の世界」のウラガワ！は今回で終了です。

お読みいただきありがとうございました。

次の連載をお楽しみに♪

作成・お問い合わせ先  
福島市 文化振興課 埋蔵文化財係  
TEL：024-525-3785